

島根大学

社会福祉論集

第10号

《論文》

福祉政策過程における行政統制の実証分析

—市町村福祉総合相談拠点を多主体参加でどう構築するか—

加川 充浩 1

『手をつなぐ親たち』および『手をつなぐ』の記述内容から読み取れる知的
障害者の性行動に対する当事者ならびに関係者の態度

—1985年4月から1995年3月の記事を手掛かりに—

京 俊輔 15

肝疾患患者支援のための看護師研修会レポートの計量テキスト分析

—看護における実践内容の全体像の整理—

北山 裕子・正木 尚彦 41

(縦組)

「自覚と叫びとしての念仏」再考

—大仏空と「青い芝」あるいは「宗教的なるもの」と障害当事者運動

山崎 亮 一

《研究ノート》

国際ソーシャルワークの新概念を活用する手法

東田 全央 55

専門職がセルフヘルプグループと連携する際に考慮すべき点

—薬物依存問題のある人の親にとっての「回復」を通して考える—

安高 真弓 69

AOPは規範的でない声を包摂できるか？

武子 愛 81

島根大学 人間科学部 福祉社会教室

2026年3月

編集後記

○本誌を編集集中であった2026年2月8日(日)、松江市では積雪が40センチを超える記録的な大雪となりました。奇しくもその日は衆議院議員選挙の投開票日でもありました。前年に女性として初めて総理大臣に就任した高市早苗氏による「高市旋風」が吹き荒れたと言われ、自民党は戦後最大規模となる3分の2の議席を確保しました。2026年2月8日は、気候面でも政治面でも歴史に残る一日となりました。

○島根大学社会福祉論集は今年10号を迎えます。今号は所属している全教員に加えて、ご退職なさった山崎亮先生もご寄稿くださいました。先生方のご専門を深く知ることが出来る充実の内容となりました。ご寄稿いただいた先生方に、感謝申し上げます。

○山陰社会福祉研究会が2025年3月3日(第15回)および2026年2月26日(第16回)に行われました。詳細は以下になります。

第15回 山陰社会福祉研究会

日時 2025年3月3日

報告1 「国際ソーシャルワーク理論研究：世紀と境界を越える探究」

東田 全央 氏

報告2 「複合的な課題を抱えているケースへの支援のあり方に関する考察」

北山 裕子 氏

第16回 山陰社会福祉研究会

日時 2026年2月26日

報告 「民生委員の担い手を産み出す地域社会の構造とは

—民生委員実践・研究の歴史から考える—

加川 充浩 氏

(武子 愛)

執筆者一覧

加川 充浩 (島根大学人間科学部福祉社会教室)

北山 裕子 (島根大学人間科学部福祉社会教室)

京 俊輔 (島根大学人間科学部福祉社会教室)

東田 全央 (島根大学人間科学部福祉社会教室)

安高 真弓 (島根大学人間科学部福祉社会教室)

武子 愛 (島根大学人間科学部福祉社会教室)

山崎 亮 (島根大学名誉教授)

正木 尚彦 (国立療養所多磨全生園 前園長)

島根大学 社会福祉論集 第10号

ISSN 1881—9419

2026年3月31日 発行

編集人 島根大学人間科学部福祉社会教室

発行人 島根大学人間科学部福祉社会教室

〒690-8504 松江市西川津町1060

印刷所 株式会社 黒潮社

Journal of Social Welfare Studies

Shimane University

VOL. 10 MARCH 2026

CONTENTS

Original Article

Administrative Controls Influencing Local Welfare Policy Processes

Mitsuhiro KAGAWA 1

Attitudes Toward the Sexual Behavior of Persons with Intellectual Disabilities as Reflected in the Content of “Te Wo Tsunagu Oyatachi” and “Te WoTsunagu” : Analysis based on journals published by parents organization of people with intellectual disabilities from April 1985 to March 1995

Shunsuke KYO 15

Quantitative Text Analysis of Nurse Training Reports on Support for Patients with Liver Disease: Overview of Nursing Practice Content

Yuko KITAYAMA, Naohiko MASAKI 41

Rethinking “Nenbutsu” as Awakening and Shouting : OSARAGI Akira (大仏空) and the “Green Grass (青い芝)” in the perspective of the Religious in Japanese Disability Movement

Makoto YAMAZAKI —

Brief Report

Promoting Dialogue Using the New Concept of International Social Work

Masateru HIGASHIDA 55

Points to consider for professionals collaborating with self-help groups
—Reflecting from Recovery for Parents of Person with Substance Use Disorders—

Mayumi ATAKA 69

Can Anti-Oppressive Practice (AOP) Include Non-Normative Voices?

Ai TAKESHI 81

Study on Welfare Society, Faculty of Human Sciences,
Shimane University (Matsue, JAPAN)